

愛知県代協が熱田神宮清掃

今年で11回目、263名が参加

愛知県代協(金子紀代 会長)は10月22日午前8時45分から第11回「熱田神宮清掃行事」を行い、代協会員や保険会社など

263名が参加した。活動に先立ち、金子会長が挨拶。会員増強のお礼、福田安展常務執行役員と熱田神宮・安部総務課長(権欄官)がそれぞれ挨拶をした。

記念写真撮影のあと、北コース東門・西門、南コース東門、参道コースの4つのコースに分かれ清掃を開始した。

熱田神宮の周囲や参道に落ちているごみや落ち葉などを清掃。参道では



女性のバスガイドが清掃をする人に声をかけ、話を聞いて感心している場面もあった。保険会社に勤めるお母さんと一緒に来た男の子はお母さんのお手伝いをしながら、どきどきしながら清掃を手伝っていた。初めに参加したという男性会員は「目を凝らしてみると、結構ごみや葉っぱがあるように思いました。今日はきれいにして帰ります」と言っていた。午前11時前から集合場所に参加者が戻って

きた。最後に佐藤則康副会長が「皆さんの心がけで、清掃活動をするにはさすがに絶好の日曜日でした。本日はありがとうございました」と締めくくった。

終了後、田中邦夫CSR委員長は「しっかり掃除をしてもらったと神宮からも評価をいただきました。私は今年初めて担当しましたが、やってみるといろいろなことがあり、いい経験になりました」と話してくれた。

清掃の模様

「クリーンアップキャンペーン古都なら」

奈良県代協、150名が参加

奈良県代協(平尾武士会長)は10月29日「クリーンアップキャンペーン古都なら」を開催。今年で16回目は、奈良県代協、奈良県同代協の会員、京都代協と滋賀県代協の会員、保険会社の社員ら約150名が参加した。

まず、平尾会

長が「本日は代協の会員や保険会社から多くの人たちが参加いただきありがとうございます。清掃は心が基本です。奈良の町をきれいにするとともに、心をきれいにしていただきたい」と挨拶。

駅前広場で集合写真を撮ったあと、日本代協と背中を書いたみどりのジャンパーを着て、用意されたごみ袋とごみ袋を軍手をした手に持ちながら、JR奈良駅前から市内三条通りを中心に猿沢池経由や興福寺境内経由など春日大社一之鳥居付近までを3コースに分けて清掃が行われた。



清掃に向かう代協会員ら



清掃の模様



JR元町駅前



JR加古川駅前



JR姫路駅前

晴天に恵まれ清掃は順調に進み、約1時間、午前11時ごろには集合場所に戻ってきたごみ袋が手渡された。

キャンペーンを行った。今年には地震保険制度創設50周年ということもあり、JR元町駅(神戸市)、加古川駅(加古川市)、姫路駅(姫路市)の3会場で一斉開催した。3会場で24名の会員が参加。また、保険の普及は公益に資する「の考えのもと、今後も引き続き、啓発と普及に努めていきたい」としている。

地震保険街頭キャンペーン

兵庫代協(塩谷広志会長)は10月21日(日)前後に実施している、地震保険啓発・普及街頭

合計65名の社員が応援で参加し、CSR活動では過去最多の総勢89名で、ティッシュ100個を配布し、地震保険の加入を呼びかけ